

平成30年12月12日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示している。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	並	12月上旬発生量：並 気象予報：降水量並から多(+)	・ 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	灰色かび病	やや多	12月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：降水量並から多(+)	・ 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 ・ 発病果や発病茎葉は施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	オンシツコナジラミ	並	12月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並から少(-)	・ 発生初期から薬剤防除する。 ・ 施設内外の除草や防虫網の設置など耕種的・物理的防除に努める。
	タバココナジラミ	やや多	12月上旬発生量：多(+) 気象予報：日照時間並から少(-)	・ 黄色粘着テープなどにより成虫を誘引捕殺する。
キ ャ ベ ツ	黒腐病	多	12月上旬発生量 冬キャベツ：多(+) 気象予報：気温並 降水量並から多(+)	・ 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、既発ほ場では風雨後の防除に努める。
	菌核病	やや多	12月上旬発生量 冬キャベツ：並 気象予報：気温並 降水量並から多(+)	・ 発病株は速やかに抜き取りほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 ・ 薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するように、ていねいに行う。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	黒斑病	やや多	12月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並から多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
	べと病	やや多	12月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温並 降水量並から多（＋）	
	ネギアザミウマ	並	12月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並から多（－）	
冬レタス	菌核病	並	12月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並から多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに抜き取りほ場外に持ち出し、適切に処分する。 ・ トンネル内が過湿にならないようにする。
	灰色かび病	並	12月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並から多（＋）	
イチゴ	うどんこ病	並	12月上旬発生量：少（－） 気象予報：気温並 降水量並から多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉かき作業を適宜行い、切除部位を適切に処分する。 ・ 発病初期から薬剤防除する。
	アブラムシ類	並	12月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並から少（－）	
	ハダニ類	並	12月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並から少（－）	
温州ミカン	ミカンハダニ	やや少	11月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並 降水量並から多（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ マシン油乳剤による越冬期防除を行う。ただし、樹勢の弱い樹では散布を避ける。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
カーネーション	アザミウマ類	並	11月下旬発生量：並 11月黄色粘着板誘殺数： やや少（－） 気象予報：気温並 日照時間並から少 （－）	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	並	11月下旬発生量：並 気象予報：気温並 日照時間並から少 （－）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
ストック	菌核病	並	11月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：並[発生なし] 前作発生量（2月下旬） 施設ストック：やや多（＋） 露地ストック：並 気象予報：気温並 降水量並から多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取りほ場外に持ち出し、適切に処分する。 施設栽培では過湿にならないよう注意する。
野菜・花き共通	コナガ	やや多	11月下旬発生量 施設ストック：やや少（－） 露地ストック：やや多（＋） 12月上旬発生量 冬キャベツ：やや多（＋） 11月フェロモントラップ誘殺数 ：多（＋） 気象予報：気温並 降水量並から多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

II その他の情報

平成 30 年度サトイモ疫病の発生状況と防除対策について

近年、西日本で発生が増加し問題となっているサトイモ疫病が、昨年に引き続き本年度も県内産地で発生した。サトイモ疫病の症状は、少なくとも千葉・印旛・香取・山武地域で確認された。

サトイモ疫病は、7月上旬から発生が確認され始め、8月には被害面積が増大した。

サトイモ疫病は、葉身や葉柄に輪紋病斑を形成する。葉身の病斑は葉枯れ、葉柄の病斑部位は折れて欠損しやすくなる（写真1～3）。このため、光合成に必要な葉を失って収量を減らす原因となる。

本病の蔓延を防ぐためには、耕種的防除と薬剤による適期防除を組合せ、被害の軽減と翌年度の発生を抑制することが必要である。また、県では本年度予備的調査を行い、次年度より防除対策の試験研究を実施する予定である。



写真1 被害を受けたほ場



写真2 葉身の病斑



写真3 葉柄の病斑



写真4 病原菌(遊走子のう)

<生態・知見>

- 1 詳細な伝染経路は未解明である。
- 2 サトイモ疫病菌の生育温度は 10～35℃、適温は 27～30℃である。病変部にできる遊走子が水を介して伝染するため、風雨により急激に蔓延する。
- 3 本病の発病部位から軟腐病等の細菌性病原菌が2次的に感染すると、被害が拡大する恐れがある。
- 4 発病すると葉面積が不足し、減収する危険性がある。

<耕種的防除>

- 1 発生ほ場や周辺の野良生えイモは重大な伝染源となりえるので、収穫後の残さや野良生えイモは、ほ場外に持ち出し適切に処分する（埋却等）。
- 2 発生ほ場は、収穫後ロータリーで耕うんし、残さを破砕する。更に、翌春までに数回耕うんして残さの分解を促進する。
- 3 種イモは、健全なものを使用する。
* 種イモは、水で土壌を洗い流した後、水選別する（浮いたイモは除去）。
洗淨・選別に使用する水は、ケミクロンGで消毒すること(50,000倍)。
- 4 ほ場の排水対策を徹底する。
- 5 発病した茎葉は、健全株に触れないようほ場外に持ち出し、適切に処分する（埋却等）。

<薬剤防除のポイント>

- 1 早期に蔓延すると大きな減収となるので、発生初期（本年は7月）からの定期防除に努める。
- 2 台風やまとまった降雨があった場合は、早急に薬剤を散布することが望ましい。
- 3 薬剤をムラなく株元まで散布できるよう、ほ場内に通路を設けておく。
- 4 表1の薬剤を散布する。薬液がサトイモの茎葉に十分付着するよう必ず展着剤（表2）を使用する。
- 5 予防散布はジーファイン水和剤を用い、発病を認めた場合にはアミスター20フロアブルを散布する。

表1 サトイモ疫病に登録のある農薬（散布）

薬剤名	使用基準 (使用時期／使用回数)	希釈倍率	使用液量
ジーファイン水和剤	収穫前日まで／制限無	1,000	150～500ℓ/10a
アミスター20フロアブル	収穫14日前まで／3回	2,000	100～300ℓ/10a

* アミスター20フロアブルの作用機構分類コードは11、ジーファイン水和剤はM1、NCである。

表2 いも類に登録のある展着剤(例)。

薬剤名	使用基準（希釈倍率）
スカッシュ	5～10ml/10ℓ(1,000～2,000倍)
アプローチBI	5ml/10ℓ(2,000倍)
ハイテンパワー／クイックタッチ	1～2ml/10ℓ(5,000～10,000倍)

参考

宮崎県の刊行した「サトイモ疫病対策マニュアル」（インターネット上で閲覧可能 <http://noyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/noyaku/user/top/miyazaki>）が参考になる。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：12月上旬，果樹・花き：11月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (長生, 海匝, 君津)	うどんこ病	発病株率 (%)	0.27	1.54	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	3.33	1.69	1.07	
	葉かび病	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.27	0.48	1.07	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	3.67	0.45	0.53	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	0.27	1.34	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.15	0.27	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	11.50	—	14.60	H27から作 型を変更し たため、平 年値は無し
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.00	—	0.00	
	菌核病	果実発病度	1.25	—	4.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	—	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	16.00	—	7.20	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	—	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	—	4.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	—	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	—	0.00	
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	—	0.00		
冬キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.51	0.80	
	黒腐病	発病度	4.00	0.20	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.40	0.00	
	コナガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.60	0.21	0.80	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	タマナギンウワバ	25株当たり寄生幼虫数	0.00	0.12	0.20	
春キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.05	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	2.22	2.00	
	コナガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.15	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (長生, 山武)	黒斑病	発病度	4.40	5.81	0.40	
	さび病	発病度	0.00	0.93	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	3.20	5.80	0.00	
	ネギアザミウマ	寄生株率 (%)	41.60	37.68	13.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	1.20	1.44	0.00	
	ハスモンヨトウ	被害株率 (%)	0.80	0.25	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率 (%)	0.00	0.46	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.30	0.79	0.00	
冬レタス (安房, 君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.36	0.00	
	モザイク病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	斑点細菌病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.52	0.40	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
イチゴ (山武, 海匝, 安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	1.60	6.75	1.65	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	5.05	4.35	4.38	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.22	1.00	0.27	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	19.73	16.63	31.12	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ クワゴマダラヒトリ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.18	0.00	
		雌成虫寄生葉率 (%)	4.40	9.66	2.80	
		被害葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.80	
		立枯病	0.00	0.64	1.60	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	12.00	20.08	38.40	
		黄色粘着板	1.40	6.22	7.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
		黄色粘着板	57.00	35.40	8.40	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	11.20	8.32	4.80	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
ヨトウムシ類	被害株率 (%)	3.20	1.60	0.80		
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	コナガ (施設)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.63	2.40	
	コナガ (露地)	幼虫寄生株率 (%)	6.67	5.31	7.00	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	2.67	11.75	1.00	

トラップ月間誘殺数 (11月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数 (頭)			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠, 安房	128.1	43.3	96.0	
	ハスモンヨトウ	県内全域	841.0	737.4	556.2	
	シロイチモジヨトウ	〃	4.8	1.9	2.7	
	オオタバコガ	〃	44.5	26.9	12.2	
	タバコガ	〃	2.1	5.9	4.2	
	ネギコガ	東葛飾, 山武, 長生	3.8	6.1	17.6	

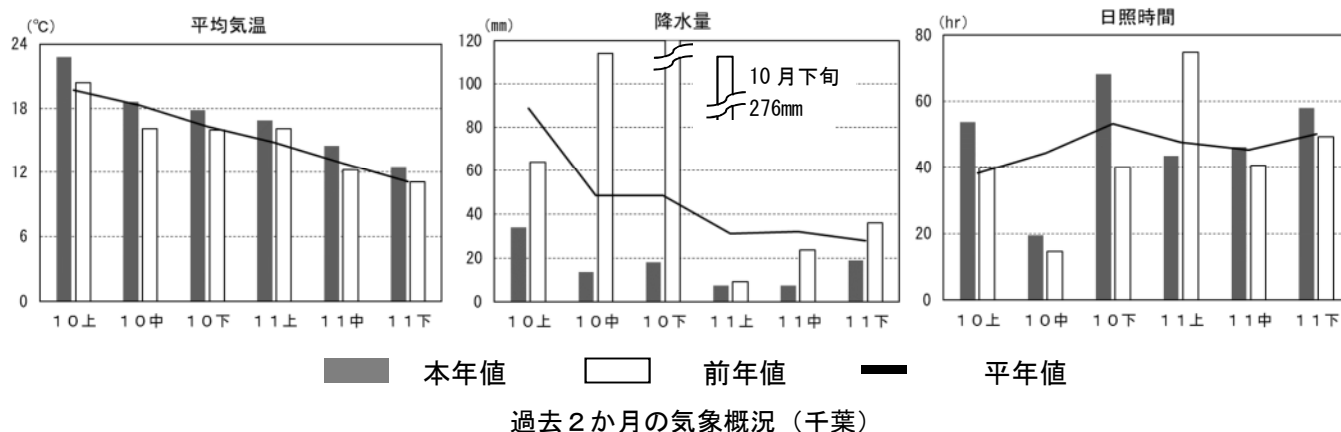
○気象予報

12月6日気象庁地球環境・海洋部発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	30	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(12月12～1月11日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	7.1	7.8	7.6
降水量(mm)	47.0	71.2	75.8
日照時間(hr)	182.7	171.7	171.2



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は1月17日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp